

## 400 年の時を超えて、2013 朝鮮通信使祭り。 ～ユネスコ世界遺産登録を目指して～

ソウル事務所

### ■はじめに

江戸時代に日韓両国の平和と友好に寄与した朝鮮通信使の精神を受け継ぎ、釜山市民をはじめ日韓両国の関係者がさまざまな催しで朝鮮通信使を再現する祭り、「2013 朝鮮通信使祭り」が開催されました。

クレアソウル事務所では、祭りのメインイベントである「平和の行列」の出発式に来賓として参加するとともに、長崎県の依頼を受けて、諫早市からの参加団体に対する活動支援を行いましたのでその様子をご紹介します。



メイン会場となった龍頭山公園

### 【行事概要】<sup>1</sup>

名 称：2013 年朝鮮通信使祭り

主 催 者：(財)釜山文化財団

日 程：2013 年 5 月 3 日 (金)～5 日 (日)

5 月 3 日：朝鮮通信使国際学術シンポジウム、三使任命式ほか

5 月 4 日：朝鮮通信使「平和の行列」、交流会、文学交流事業出版作品記念式ほか

5 月 5 日：舞台イベント、通信使縁故都市観光物産展ほか

会 場：龍頭山公園広場および光復路一帯 (周辺道路)

パレード参加者：約 1,500 人 (日本側 8 団体<sup>2</sup> (約 200 名))

この祭りは 2002 年ワールドカップ日韓共催を記念して、2003 年から毎年行われています。今年は日本の閣僚らの靖国神社参拝や首相の日韓関係に関する発言などがある中で開催となりましたが、「よしみ (信) を通じる」という通信使の語源の言葉どおり、信頼を基盤とした日韓交流の象徴的な行事として両国の関係自治体はその歴史の重みを共感しつつ共に支え合う意義深い祭りとなりました。

<sup>1</sup> 主催者の提供資料を基に作成

<sup>2</sup> 東筑豊学園高等学校 (北九州市)、馬関奇兵隊 (下関市)、セサストリートダンススクール (下関市)、舞人・マインド (日高市)、のんのこ彩々会 (諫早市)、青嵐 (佐世保市)、静岡祭り技の会 (静岡市)、長崎県対馬市武士団 (対馬市)

## ■朝鮮通信使の歴史

朝鮮通信使は、徳川幕府の要請により朝鮮から派遣された公式の使節団でした。将軍の権威を高め国内を安定させたいという日本の思惑と日本との戦争状態を終結させ、連行された人々を帰国させたいという朝鮮の思惑から、1607年に始まった派遣は1811年までに計12回に渡り行われました。互いの思惑から始まった派遣は徐々に祝賀の性格を持ち始め、第4回使節団（1636年）から「通信使」と名付けられたと伝えられています。

朝鮮国の都・漢城（ハンソン）から江戸まではおよそ2,000キロあります。通信使は釜山までの道のりの中で様々な準備を整え、航海に最適な風を選んで対馬へ向けて出港します。その後、玄界灘、瀬戸内海を進み、大坂から淀川を遡って京都に上陸し、江戸を目指しました。通信使一行を乗せた船団は日本側の護送船を含めると最大で300隻になる大船団となり、まさに海上パレードとなりました。また、京都から江戸までの道中は見物人で溢れかえり、煌びやかな行列が沿道の人々を魅了したそうです。通信使は6か月以上の月日をかけて毎回大量の高価な贈り物を用意しました。これに対して徳川将軍も返礼の品を贈って礼をつくし、親善を深めながら信頼関係を築いていきました。

また、この間、旅の先々では多くの民衆が通信使の宿舎を訪ね、文人たちと筆談で交歓しながら漢詩や書、医学、芸能などの優れた文化に触れ、このことが日本の各階層の人々に大きな影響を与えたと言われています。<sup>3</sup>

3 日韓共通歴史教材「朝鮮通信使」より引用

## ■新たな試み ～ユネスコ世界遺産登録を目指して～

釜山市は、この朝鮮通信使のユネスコ世界遺産登録を目指して、今年新たな試みを行いました。

### （1）市民公募による三使の決定

当時の朝鮮通信使団は総勢500人にも昇りました。その最高位は三使（正使・副使・従事官）と呼ばれ、使節団の総責任者として全体を統括し、帰国後に国王に報告する重要な役割を担っていました。今年は祭りの主役であるこの三使を初めて市民公募により決定するなど、市民と一体となって取り組む雰囲気を感じられました。



祭りの主役、三使は市民公募により決定

左から 正使 キム・ドンホ氏

（元・釜山国際映画祭執行委員長）

副使 イ・ハクラク氏

従事官 チェ・ヨンエ氏



## (2) 日韓の文学交流

今年の祭りでは文学分野での交流も初めて行われました。

姉妹都市間の文学作品交流事業を契機として、直木賞受賞作家・古川薫氏が中世日本の南北朝時代の武将・大内義弘の一代記を描いた小説「炎の塔—小説大内義弘—」が韓国において翻訳・出版され、5月4日に開かれた交流会では、これを記念して韓国語版の伝達式が行われました。



文化交流事業出版作品記念式

## ■街頭公演

行列の終点となる光復路一帯では、本番を前に、日本を含む参加団体による街頭公演が行われ、祭りの雰囲気さをさらに盛り上げました。

5月4日(土)は天候にも恵まれ、沿道には釜山市民をはじめ、ゴールデンウィークを利用して釜山を訪れた日本人観光客など多くの人々で賑わいました。

太鼓や楽器の音色に突き動かされて、思わず踊り手と一緒に体を揺らすお年寄りや軽快なリズムに乗って踊りだす子供たち、威勢のいい合いの手や歓声飛び交うなど街全体がお祭りムード一色になりました。



街頭公演の様子

## ■メインイベント「平和の行列」

メイン会場の龍頭山公園には多くの市民が詰めかけ、日本側からも在釜山日本国総領事をはじめ、下関市、対馬市、瀬戸内市など朝鮮通信使にゆかりのある地方自治体から多くの方々が出席して出発式が盛大に行われました。スタートの合図である風船と紙吹雪が空高く舞い上がり、いよいよメインイベント、「平和の行列」のスタートです。

色鮮やかな衣装に身を包んだ1,500人規模の行列が三使を先頭に釜山の街を練り歩きました。この行列には日本の7都市、8団体から総勢200人が参加し、パフォーマンスを披露しながら、この祭りを盛り上げました。

沿道を埋め尽くす人々から歓声が挙がり、街中が熱気に包まれると祭りの雰囲気は一気に最高潮に達しました。



出発式(クレアソウル事務所も参列)



「平和の行列」がスタート！



華やかなパレードの様子



## ■交流の夜（晩餐会）

パレード終了後の夜には、「交流の会（晩餐会）」が開催され、参加した文化団体やこの祭りに携わった多くの関係者がさらに交流を深めました。

また、主催者である（財）釜山文化財団から日本の参加団体に対して感謝の楯が贈呈されました。



交流会の様子

## ■クリアソウル事務所による活動支援

今回の朝鮮通信使祭りでは、長崎県からの依頼により諫早市の「のんのこ彩々会（皿踊り）」に同行し、開催期間中の活動支援を行いました。韓国内の移動や公演のリハーサル、パレード・交流会に同行して現地での活動をあらゆる面からサポートさせて頂きました。参加者同志が文化や言葉の壁を乗り越えて交流し、互いの理解を深め合う場に立ち会い、またそのお手伝いが出来ることに感動を覚えました。



交流のサポートをするクリアソウル事務所職員

このように、クリアソウル事務所では海外で活動する皆様のお手伝いを実施しています。今後、韓国内での活動予定がございましたら、ぜひともソウル事務所へご相談ください。

（古殿所長補佐 鹿児島県派遣）